

18 関係機関・団体との連携に関する事項

1 校友会・親和会との連携

○校友会・親和会・大学の三者で連携する事業

校友会及び親和会は、いずれもその設立趣旨に則り、龍谷大学の発展に資するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としている。また、大学・校友会・親和会の三者で共催事業を展開しており、龍谷大学の発展に努めている。2013年度には、2012年度までの北陸地区での実績をもとに、龍谷大学の認知度向上事業を、地域を拡大（近畿・中四国・中部）し、校友会・親和会の協力・支援を得て実施する。また卒業生及び保護者の交流の場として、学園祭の開催に合わせてホームカミング・デーを開催するとともに、セミナーハウス「ともいき荘」における研修（会員交流等）の利用促進に努める。

○校友会との連携

校友会は、龍谷大学の発展に寄与する事を目的とする卒業生組織であり、海外を含む全国に在住の校友のネットワーク（45支部）を構築している。校友会の取り組みとして、龍谷賞・校友会賞・奨励金授与・就職支援（資格取得・キャリアアップ支援講座の開設 他）等、卒業生から在學生にまで対象を拡げた支援事業を行っており、各支部においても公開講演会や各種の会員交流会を開催している。2013年度においても校友会との連携を図り、これら諸事業に取り組んでいく。

○親和会との連携

親和会は、教育・学生生活支援と併せて会員相互の情報交換と相互親睦を目的とした保護者組織である。親和会の取り組みとして、保護者への「成績表」送付や、学修懇談・就職懇談を含む保護者懇談会（29都市）の開催等、大学と連携した支援事業を行っており、在學生の学習環境の整備や課外活動等に対しても、親和会からの積極的な支援・協力を得ている。2013年度においても親和会との連携を図り、これら諸事業に取り組んでいく。

2 学校法人が出資する事業法人との連携

2013年度には、学校法人龍谷大学の出資による事業法人「龍谷メルシー株式会社」を設立し、大学業務における間接業務のスリム化等を図ることとする。本学が事業法人と連携することによって、大学の人的・組織的・財政的資源を、教育・研究・社会貢献事業の環境整備に充て、これら諸事業の充実に資する取り組みとして展開していく。

3 浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との連携

本法人の設置理念や寄附行為からも見られるように、本法人の設立母体である浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との関係は重要である。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後も本法人が多様な展開を進めながら社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派及び本山本願寺との連携を強化していく。

○宗学連携推進協議会による連携強化

2011年度に浄土真宗本願寺派において厳修された親鸞聖人750回大遠忌法要では、本学においても積極的に連携を図り、様々な事業が実施された。これらの連携をより強固にするため、双方の連携を推進する機関として「宗学連携推進協議会」が設けられている。2013年度においても、「宗学連携推進協議会」をもとに浄土真宗本願寺派との連携・協力体制を築き、諸事業を推進していくこととする。とりわけ、浄土真宗本願寺派及び本山本願寺が行う行事への学生参画や龍谷ミュージアムの運営にあたっては、より連携を深めながら推進する。

4 龍谷総合学園との連携

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教を建学の精神とする学園が、それぞれの個性を活かしつつ、相互の連携を密にしながらかつて発展することを目的に「龍谷総合学園」が組織されており、現在、27学校法人71校（7大学、2短期大学、28高等学校、15中学校、4小学校、15幼稚園）が加盟している。

○学校間連携推進委員会等への参画

加盟校の学校間連携に関する諸事業を統括する中核機関として、「龍谷総合学園学校間連携推進委員会」が設置されている。同委員会は、生徒・学生及び教職員の交流を通じ、総合学園と各学校の教育・学習活動の活性化を促すための事業の企画・推進を目的としており、本学は龍谷総合学園の中核校として、事業の企画・推進に携わっていく。また、2013年度の事業として計画されている、各種研修会、研究会、協議会等にも積極的に参加し、龍谷総合学園の発展に寄与できるよう努める。

5 仏教系大学会議との連携

「仏教系大学会議」は、現在65の大学・短期大学で組織されており、建学の理念を仏教におく全国の仏教系大学が、それぞれの個性を尊重しつつ各大学間の連携を密にし、各大学の充実発展を図るとともに高等教育機関としての社会的責務を遂行することを設立の目的としている。

○幹事校、研修運営担当校として参画

本学は、1994年の設立当初より幹事校（愛知学院大学、大谷大学、高野山大学、駒澤大学、淑徳短期大学、大正大学、兵庫大学、佛教大学、立正大学、龍谷大学）として参画しており、幹事である学長が本会議の運営に主体的に携わっている。また、本会議は毎年度、研修会の開催及び機関紙「如是我聞」の発行を行っている。引き続き、本会議の趣旨を踏まえながら各事業に積極的に携わり、各大学との連携を強化していくこととする。なお、2013年度には、本会議の設立20周年を記念するシンポジウム等の開催が計画されている。本学は記念事業の企画運営に係るワーキンググループに参画しており、主体的に事業を実施していく。

6 私立大学連盟との連携

日本私立大学連盟（以下「連盟」という）は、私立大学の振興等を目的として設置された社団法人であり、現在124大学（109法人）が加盟している。本学は、教育研究環境の向上と経営基盤の確立に資することを目的に加盟しており、連盟を通じて高等教育政策動向や他大学の状況についての情報を敏速かつ的確に収集することに努めている。

○諸委員等の派遣と研修事業等への参加

連盟の方向性や情報を敏速かつ的確に収集するため、2013年度においても、従来どおり諸委員等の派遣を行うとともに、連盟の実施する各種研修事業等に、積極的に本学職員を参加させることとする。

7 大学コンソーシアム京都との連携

公益財団法人大学コンソーシアム京都（以下「コンソーシアム」という）は、「大学のまち・京都」の充実・発展を目的に、大学間連携事業や産官学地域連携事業を展開す

る財団法人であり、京都地域の約50大学が加盟している。本学は、コンソーシアムの設置当初から加盟しており、2012年度からは本学学長が財団法人の理事長に就任している。2013年度においても、前年度に引き続き主体的に運営に携わっていく。

○コンソーシアムが運営する単位互換制度への本学学生の派遣と他大学学生・一般市民の受入

本学学生及びコンソーシアムに所属する他大学学生に対し、多様な学習機会を提供するため、コンソーシアムが実施する単位互換制度（2012年度：本学からの派遣学生数342名、他大学からの受入学生数393名）やインターンシップ事業（2012年度：本学の参加学生数94名）を積極的に活用している。2013年度においても、引き続き、積極的に活用すべく推進していく。

○コンソーシアム運営に対する本学の取り組み

従来どおりコンソーシアムの運営に携わることとし、事務局に本学の専任事務職員を外向させるとともに、コンソーシアムが設置する各種委員会等に対し、必要に応じて本学教員・職員を委員等として派遣する。